

文章題のめあてとまとめ 解決の道筋

— 2年「ちがいをみて」（啓林館）について —

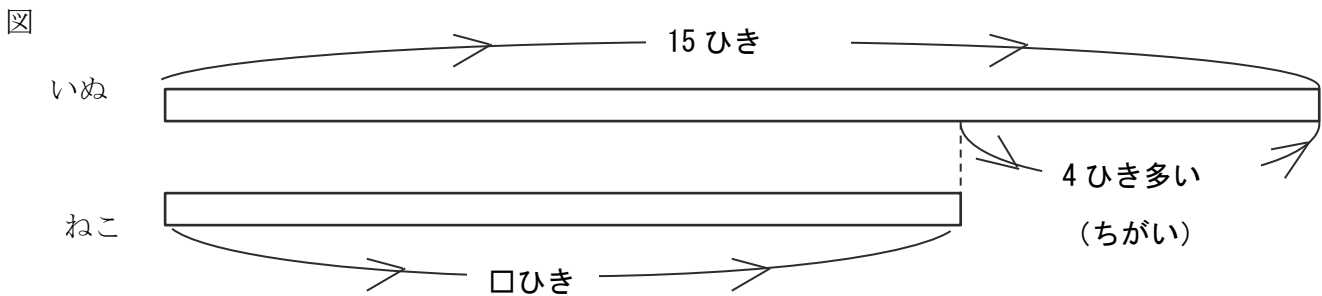
(注：ページ番号は、平成27年度版啓林館のもので、問題文は著作権の関係で掲載できません。
お手数ですが、教科書を参照してください。)

下 p. 78① $a = \square + b$ の問題

まず既習のちがいを求める $a - b = \square$ の問題と、本時の $a = \square + b$ の問題を比べることで、今までは分かっている数との違いを計算していたが、今は、分かっている数との違いが示されていることに気づき、次のような一般化されためあてをつかむ。

めあて

数のちがいがわかっていて、わかっている数がわかっていない数より多い（大きい）ときのわかっている数のもとのめ方を考えよう。



式 $\cdot 15 - 4 = 11$ 答え 11 ひき

↑
逆思考で逆算

まとめ

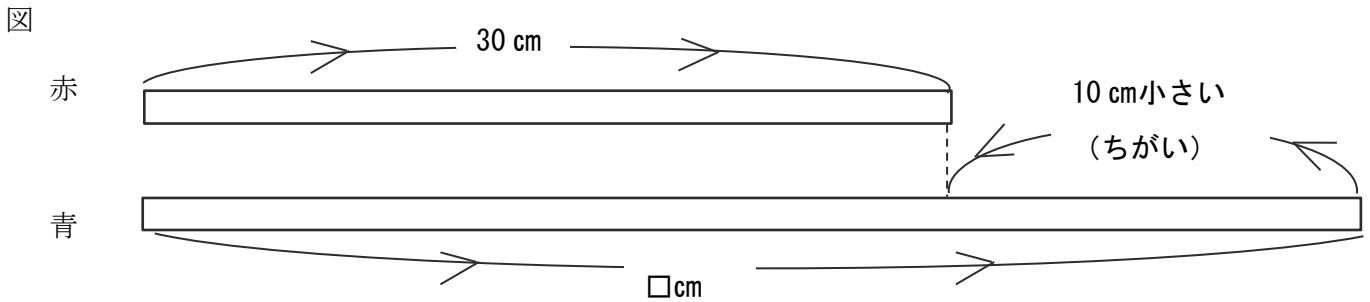
数のちがいがわかっていて、わかっていない数より多い（大きい）ときのわかっていない数をもとめるには、わかっている数から多くなっている（ちがいの）数をひく。

下 p. 79③ $a = \square - b$ の問題

p. 78①の $a = \square + b$ の問題と本時の $a = \square - b$ の問題を比べることで、次のような一般化されためあてをつかむ。

めあて

数のちがいがわかっていて、わかっている数がわかっていない数より小さい（少ない）ときのわかっていない数のもとめ方を考えよう。



式 $\cdot 30 + 10 = 40$ 答え 40 cm

↑
逆思考で逆算

まとめ

数のちがいがわかっていて、わかっていない数より小さい（少ない）ときのわかっていない数をもとめるには、わかっている数に小さくなっている（ちがいの）数をたす。